

● 計算例

○ 所有する資産を次のとおりとします。

資産の名称等	取得年月	取得価額(円)	耐用年数	減価率
エアコン	令和6年11月	500,000円	6年	0.319
パソコン	令和7年4月	220,000円	4年	0.438
コンクリート舗装	令和7年6月	3,000,000円	15年	0.142

○ 令和8年度の評価額と税額を計算します。

資産の名称等	評価額			
エアコン	初年度	$500,000円 \times (1 - 0.319/2) =$		420,000円 R7年度評価額
	次年度	$420,000円 \times (1 - 0.319) =$		286,020円 R8年度評価額
パソコン		$220,000円 \times (1 - 0.438/2) =$		171,820円 R8年度評価額
コンクリート舗装		$3,000,000円 \times (1 - 0.142/2) =$		2,787,000円 R8年度評価額



評価額の合計 = 決定価格 = 課税標準額	→	3,244,840円 (R8年度評価額の合計)
-----------------------	---	-------------------------

※課税標準額が150万円未満の場合は課税されません。



課税標準額の1,000円未満を切り捨て、税率をかけます。	$3,244,000円 \times 0.014(税率)$ = 45,416円
------------------------------	--



100円未満を切り捨てます。	45,416円
----------------	---------



45,400円 (税額)

※ 課税標準の特例の適用を受ける資産がある場合の課税標準額は、該当資産の額にそれぞれ特例率を反映させた額になります。